

【2025年度/専門科目領域/専門科目群/人間コミュニケーション学科】

科目名	ナンバリング	区分(必修・選択)	単位数	履修年次	開講学期等	
コミュニケーション・プロジェクト HC-2		選択	2	2.3	前期	
担当教員	研究室	電子メールID		オフィスアワー		
田村 正人	B308	masato.tamura		水曜日 12:10~13:00		
授業の目的・概要	<p>&lt;目的&gt;人間コミュニケーション学科のディプロマポリシーにある「豊かな人間観」と「多様性を尊重する姿勢」を育むため、多角的な視野を培い、異なる背景や視点を尊重できる、多様な自己表現・コミュニケーションを実際の社会場面で実践して、自らの可能性を発掘させることにつなげる。</p> <p>&lt;概要&gt;HC-2では、様々な社会的に困難を抱え孤立している女性を対象に、学生が支援実践者と協働する体験を提供する。女性のエンパワメントを図るために、課題の整理、社会資源への橋渡し、起業を含めた支援の実践を通して、将来の社会人として戦略的に社会貢献できる実務方法を体感する。</p>					
授業形式・方法	<input checked="" type="checkbox"/> 対面授業 <input type="checkbox"/> 遠隔授業(双方向型) <input type="checkbox"/> 遠隔授業(自主学習)	<input checked="" type="checkbox"/> 講義 <input type="checkbox"/> 実習	<input type="checkbox"/> 演習 <input type="checkbox"/> 実技	<input type="checkbox"/> PBL <input checked="" type="checkbox"/> グループワーク <input type="checkbox"/> 他	<input type="checkbox"/> 反転授業 <input checked="" type="checkbox"/> プレゼンテーション <input type="checkbox"/> 実習・フィールドワーク	<input checked="" type="checkbox"/> ディスカッション・ディベート
学習上の助言	主体は学生であることを意識して、考えて行動し、評価する姿勢をもつこと。					
教科書	指定しない。					
参考書	授業を通して適宜紹介する。					
外部教材	授業を通して適宜紹介する。					

学生が達成すべき行動目標		関連卒業認定・学位授与方針
①	人権を意識した人と社会との関わり方を習得できる。	HC(1)(5)
②	状況に応じた適切かつ的確なコミュニケーションを実践することができる。	HC(6)
③	社会人と相応しいマナー、姿勢等を体得できる。	HC(6)
④	社会貢献の実践に必要な法律、制度の知識等を理解できる。	HC(3)
⑤	計画を立てて、目標を管理しながら行動することができる。	HC(4)
⑥		

授業計画

山梨県内で女性の生活相談を実施している NPO 法人 bondplace の活動に参加し、当事者および社会的課題のアセスメント、支援計画の作成、社会資源となる様々な民間団体や自治体との会議への同席、イベントの企画や実施等を実践して重層的な視点から、希望がもてる社会貢献のあり方を追求する活動を体験する。

・スケジュール（予定）

- 4月～5月：女性の起業支援等、様々な支援の必要性と社会的背景について理解を深める。  
 5月：シンポジウム「困難な問題を抱える女性への支援のあり方に関する検討会（仮称）」の企画運営に参加する。  
 6月：社会貢献に必要な資金の調達、運用方法について、法人の活動を通して理解する。  
 7月：困難を抱える女性への支援プロジェクトを学生で企画立案し、プレゼンテーションをする。

必要時間（単位：時間）：30

学習課題・学習時間

- ・目標達成のための計画を作成し、進捗状況を毎週学生と教員で共有しながら目標管理を行う。  
 ・毎週、活動を通して得た体験をグループワークで共有し、ディスカッションを行い、理解を深める。

必要時間（単位：時間）： 60

【2025年度/専門科目領域/専門科目群/人間コミュニケーション学科】

達成度評価								
総合評価割合 (%)		試験	レポート	成果発表	ポートフォリオ	その他	合計	
		0	0	40	0	60	100	
総合力指標	知識・技術力	0	0	5	0	10	15	
	思考・推論・創造する力	0	0	5	0	10	15	
	協調性・リーダーシップ	0	0	0	0	10	10	
	発表・表現伝達する力	0	0	10	0	5	15	
	コミュニケーション力	0	0	0	0	10	10	
	取組みの姿勢・意欲	0	0	10	0	10	20	
	問題を発見・解決する力	0	0	10	0	5	15	
評価のポイント				フィードバックの方法				
評価方法	行動目標	評価の実施方法と注意点						
試験	①							
	②							
	③							
	④							
	⑤							
	⑥							
レポート	①							
	②							
	③							
	④							
	⑤							
	⑥							
成果発表	①	授業への取組みの成果として、学生全員で、困難を抱える女性への支援プロジェクトを立案し、プレゼンテーションを行う。			講評と解説を行い、評価はTeams にて発表する。			
	②							
	③							
	④							
	⑤							
	⑥							
ポートフォリオ	①							
	②							
	③							
	④							
	⑤							
	⑥							
その他	①	各評価項目に対して、学生の自己評価を前半、後半で行い、理解度を確認し、総合的に評価する。			全体の講評と、個々のコメントを加えたうえで、評価をTeams にて発表する。			
	②							
	③							
	④							
	⑤							
	⑥							
備 考								
他 担 当 教 員	なし。							
教員の実務経験	社会福祉士として高齢者や障害者の権利擁護活動を実践しているほか、自治体の委員として福祉計画などの仕組みづくりに携わる等、13年の実務経験がある。							
実践的授業の内容	講師の実務経験に基づき、NPO 法人が行っている、困難を抱えた女性への支援活動および、組織の運営等を体験し、社会貢献について実践的に理解ができるように授業を進める。							
そ の 他	・最少開講人数は 2 名、定員は 10 名とする。 ・学外での活動を予定しているが、土日に実施することがある。 ・授業で使用する資料は原則として Teams で配布する。連絡事項を含めて注意すること。 ・今後の新型コロナウィルス感染症の状況など社会情勢によって再度シラバスの変更があり得る。 ・シラバス内容を講義の進行状況によって変更することがありえる。 ・大学が公表している感染対策および教員が示す授業方法を遵守すること。問題がある場合は面接授業の参加を認めない。							